

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新潟県 見附市立西中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 954-0083
新潟県見附市市野坪町127番地

E-mail mnishi@mitsuke-ngt.ed.jp
Website http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mnishi/index.html

幼児児童生徒数 男子 193名 女子 171名 合計 364名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校のユネスコスクールの活動は、地域の中の学校として地域を知り、地域に貢献することで、見附市が少子高齢化社会を迎えても「持続可能で社会に貢献していく」ことを考えていく生徒の育成を目標に下記のようにテーマを設定し、取り組んだ。

テーマ

「地域から学び、地域を考え、地域に働きかける」ことに積極的な生徒の育成

① 地域から学ぶ活動(地域交流)

1学年では「職場見学」で地域の産業の種類やそこで働く人の意識や願いを学び、2学年では「職場体験」で実際の体験を通して、産業を支える人材の必要性や勤労の大切さを学んだ。

また、「防災学習」でさまざまな災害に対する知識と対策を学び、実際に地域の防災訓練に参加して、地域の一人暮らしの高齢者の現状や防災意識を学ぶことで、地域の一員として中学生ができることを学んだ。

② 地域を考える活動（生徒の自主性）

1学年では、「地域の良いところ探し」の活動を中心に、見附の産業や環境について考えた。2学年を中心に「みつけ祭り」の活動に参加し、見附の文化継承を考えた。

全校では、見附の自然や環境を考える機会として「西中ウォーキング」を行った。これは、地域や保護者の協力も得て、地域一体となって生徒を支えていく活動となっている。

③ 地域に働きかける活動（地域貢献）

自分たちが地域の方々に喜んでもらえることは何かを考え、資源回収を中心とした地域貢献活動を行っている。3学年では、社会福祉施設や保育施設への訪問を行うことで、ボランティア意識を高めた。

「あいさつ部」は、生徒の自主的な活動としてスタートし、学校から地域へ出たのあいさつ運動へと発展させた。「ボランティア部」は、地域へ貢献したいという生徒の願いの変化から、校内で農園を作り、芋作りを行った。できあがった芋を地域の市場で生徒自らが販売したり、市場の方のお手伝いをするすることで、地域の方から喜んでもらった。



①地域から学ぶ職場見学・職場体験



①地域から学ぶ防災訓練



②地域を考える西中ウォーキング



②地域を考える見附祭りの参加



③地域に働きかける福祉活動



③地域に働きかけるあいさつ・ボランティア活動



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

地域の防災マップ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクール担当職員を設定し、総合学習や特別活動の中で年間計画として地域に関わる活動を設定している。生徒の主体性を生かすための特別クラブの活動を計画的に行い、地域にどのように関わられるか生徒に考えさせる活動を増やしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当職員と総合学習、特別活動担当の職員が連携して活動の計画を行っている。一方で、例年行っている活動で固定している感があるので、他の学校の活動例を参考に変革していく必要がある。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

運営活動として、地域を学習素材として、様々な人・事・物との関わりを重視した体験的な活動を行っているか自己評価している。5段階評価で職員平均が3.2であり、意識した活動になっている。成果としては、地域を知り、地域から学び、自ら課題を見つけ、情報を収集したり仲間と協力して協働する「力」が備わっていると答えた職員が3.0と評価している。さらに、意図的な活動を計画していくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

特にない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に行っていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「ボランティア部」の活動として、今年度初めて地域の市場への参加を行った。地域で働く一般の方との交流ができた、地域に貢献した意識が高まった。今後は、一部の生徒の活動に終わらず、一般生徒に呼びかけながら、生徒の地域貢献の意識を醸成していく。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

特別活動の時間や総合学習に時間で行っている。そのため、他の学習との関係で例年行っている「職場見学」（1学年）「職場体験」（2学年）「福祉体験」（3学年）に変更はない。

地域から学ぶことについては、地域を挙げての「防災訓練」への参加と防災マップを利用した「防災学習」を継続して行う。また、市内をウォーキングする「西中ウォーキング」も、保護者や地域を巻き込んだ行事として定着してきているので、関わりをより充実させ継続して行う。

地域の文化継承に関わり、地域の民謡流しに参加することで、より主体的な地域振興の学習に発展させる。

生徒主体の活動として「あいさつ部」や「ボランティア部」の活動を自分たちの学びの場としてさらに発展させて、生徒たちの自己肯定感を育てる。